

ちるくんは だめ

そよ風の森で、りすさんが、木のみをさがして います。

そこへ、なかよしの 小鳥さんが やって きました。

「りすさん、何を して いるの。」

「木のみを さがして いるの。たくさん あつめて、おいしい 木のみケーキを 作るのよ。」

「いいなあ。わたしも 入れて。わたしは、上の 方の 木のみもとれるのよ。」

「もちろん。いっしょに 作りましょう。」

しばらくすると、いつも おもしろい きつねくんが やって きました。

「りすさんと 小鳥さん、何を して いるの。」

「木のみを さがして いるの。たくさん あつめて、おいしい 木のみケーキを 作るのよ。」

「いいなあ。ぼくも 入れて。ぼくは、木のみを さがすが 上手なんだよ。」

さるくんは だめ

「もちろん。いっしょに 作りましょう。」

また しばらく すると、おこりんぼうの さるくんが やって きました。

「りすさんと 小鳥さんと きつねくん、何を して いるの。」

「木のみを さがして いるの。たくさん あつめて、おいしい 木のみケーキを 作るのよ。」

「いいなあ。ぼくも 入れて。ぼくは、おいしいケーキの 作り方を 知って いるよ。」

りすさんと 小鳥さんと きつねくんは、目を 合わせて、
少し 考えて しまいました。

「さるくん、また こんど、いっしょに 木のみケーキを 作りましょう。今日は ごめんね。」

そう 言って ことわりました。さるくんの 顔は まっか
になりました。そして、プンプン おこって、足を ふみな
らして 帰って きました。



「しょうがないよね。」

「しょうがないよね。」

りすさんと 小鳥^{こどり}さんと きつねくんは、また 木^きのみを さがしはじめました。でも、なぜか みんなは、しんと なって しまいました。

どのくらい 時間^{じかん}が たったでしょうか。りすさんが ぽつりと 言^いいました。

「やっぱり わたし、さるくんを よんで こようかな。」

小鳥^{こどり}さんと きつねくんも、しずかに うなずきました。

みんなで、さるくんを よびに いきました。森^{もり}に 帰^{かえ}って くと、さるくんも いっしょに なって 木^きのみを あつめました。今^{いま}までに 見^みたことも ないくらいの、たくさん 木^きのみが あつまりました。

そして、さるくんは 作^{つく}り方を 教^{おし}えて もらいながら、みんなで ケーキの きじを 作^{つく}りました。かまどに 入^いれて しばらくすると、おいしそうな おいしが、そよ風^{かぜ}の森^{もり}に っばいに 広^{ひろ}がって いきました。

(野村 宏行 作) (橋本 ひろみ 改編)

さるくんは だめ

